

製品名: BLNK (リン酸化Tyr84) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04324**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	BLNK
別名	BLNK; BASH; SLP65; B-cell linker protein; B-cell adapter containing a SH2 domain protein; B-cell adapter containing a Src homology 2 domain protein; Cytoplasmic adapter protein; Src homology 2 domain-containing leukocyte protein of 65 kDa;
遺伝子 ID	29760.0
SwissProt ID	Q8WV28
免疫原	抗血清は、ヒト BLNK の Tyr84 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 50-99

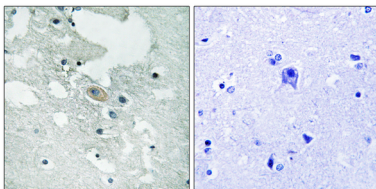
背景

この遺伝子は、B細胞の発生において重要な役割を果たす細胞質リンカーまたはアダプタータンパク質をコードしています。このタンパク質は、B細胞受容体関連キナーゼの活性化と下流のシグナル伝達経路を橋渡しすることで、様々な生物学的機能に作用します。5つのチロシン残基のリン酸化は、このタンパク質がB細胞受容体の活性化後に異なるシグナル伝達エフェクターを核形成するために不可欠です。この遺伝子の変異は、低グロブリン血症とB細胞欠損を引き起こします。これは、プロB細胞からプレB細胞への移行が発達的に阻害される疾患です。このタンパク質の欠損は、プレB細胞急性リンパ芽球性白血病の一部の症例でも認められています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2012年5月]、疾患：BLNKの欠陥が低グロブリン血症とB細胞欠損の原因である[MIM:604515]。これは、プロB細胞からプレB細胞への移行における発達上の阻害である。疾患:検査された34の小児プレB急性リンパ芽球性白血病 (ALL) サンプルのうち6つで、BLNK発現の完全な喪失または大幅な減少が示された。機能:B細胞受容体 (BCR) に関連するキナーゼを多数のシグナル伝達経路と橋渡しする中心的なリンカータンパク質として機能し、B細胞の機能と発達の生物学的結果を制御します。ERK / EPHB2、MAPキナーゼ p38、および JNKの活性化に役割を果たします。AP1の活性化を調整します。NF- κ BとNFATの活性化に重要です。BCR媒介 PLCG1 および PLCG2の活性化とCa²⁺動員に重要な役割を果たし、BCRの後期エンドソームへの輸送に必要です。しかし、MAPキナーゼおよびホスファチジルイノシトール3 (PI3) キナーゼシグナル伝達のプレBCR媒介活性化には必要ないようです。RAC1-JNK経路に必要な可能性もあります。プロB細胞からプレB細胞への移行を調整する上で重要な役割を果たします (類似性による)。BCR誘導性B細胞アポトーシスで重要な役割を果たします。オンライン情報:BLNK変異 db,PTM:BCR活性化後、SYK および LYNによってチロシン残基がリン酸化されます。リン酸化されると、PLCG1、VAV1、GRB2、NCK1などの抗原活性化の下流ターゲットを組み立てるための足場として機能します。Tyr-84、Tyr-178、および Tyr-189のリン酸化は、PLCG1の結合を促進します。Tyr-96のリン酸化はBTKの結合を促進します。Tyr-72のリン酸化はVAV1とNCK1の結合を促進する。リン酸化はCa²⁺およびMAPKシグナル伝達経路の両方に必要である。類似性:1つのSH2ドメインを含む。細胞内局在:BCRの活性化により膜分画への移行が生じる。サブユニット:B細胞抗原受容体依存的にPLCG1、VAV1、NCK1と結合する。VAV3、PLCG2、GRB2と相互作用する。SH2ドメインを介してCD79Aと相互作用する。組織特異性:B細胞系および線維芽細胞株で発現する (タンパク質レベル)。脾臓で最も高い発現レベルを示し、肝臓、腎臓、膵臓、小腸、結腸では低い発現レベルを示す。

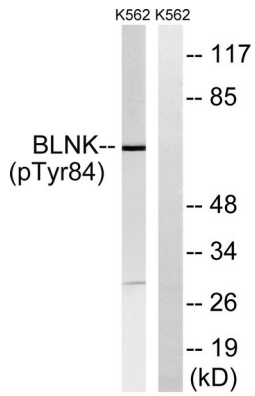
研究分野

B細胞抗原;原発性免疫不全症;

画像データ



BLNK (リン酸化 Tyr84) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



BLNK (リン酸化Tyr84) 抗体を用いた、24時間飢餓処理した K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。